

2021年8月30日

株式会社エコクリーン江別  
代表取締役 楠 瀬 一 郎 殿

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会  
委 員 長 押 谷 一



## 評 価 報 告 書

日頃より江別市の廃棄物処理の一翼を担っておられる貴社の事業に対して感謝申し上げます。

さて、7月26日に、貴社の環境クリーンセンター等運営事業を評価するため、別紙の5名の委員により第14回環境クリーンセンター等運営事業評価委員会を開催いたしました。

環境クリーンセンター等の施設・設備は、2002（平成14）年11月の竣工以来、19年目を迎えようとしています。貴社は江別市より長期包括的運営管理の委託を受けてから14年が経過しました。この間、貴社による運転管理において運転に支障をきたすような重大な事故やトラブルは発生していません。

2020年度においても、重大な事故や長期に亘る運転停止に至るような不具合をはじめ労災となる作業員等の事故も発生していないとのことでした。しかしながら昨今、地球温暖化の影響によって各地で大雨、台風などの自然災害の多発をはじめ、昨年より感染が拡大している新型コロナウイルスによって廃棄物処理をはじめ社会経済に影響が顕在化していますが、貴社の事業は、予測不可能な災害などに対しても常に運転を停止することのないよう安定した操業を行うことが必要です。

施設及び設備については、前に述べたように19年を経過していますが、江別市では当初定めていた施設・設備の耐用年数を超えた後も、引き続き本施設の運用を継続することを決定しました。そのため、貴社におかれましては、今後も安定的な運転ができるように設備の保守・管理に努めて下さい。

貴社の事業は、株式会社として利益の追求だけではなく、市民の貴重な税金が投入されていることから、社会的な責任と公益性をもつ事業です。貴職はじめ従業員ならびに関係会社全員が認識し、健全な経営は、もちろんのこと、安定した運転管理をはじめ環境面に対して安心・安全に配慮した事業を実施することに十分に留意して下さい。

これらのことを踏まえて、本委員会では、2020（令和2）年度における貴社の環境クリーンセンター等運営事業については、関連データなどを踏まえ説明を受け、いくつかの質疑にも応答いただきました。その後、いったん貴殿ならびに関係者に退席いただき委員全員で評価について協議した結果、下記の通り評価することといたしましたので報告いたします。

### 記

評価結果：環境クリーンセンター等運営事業評価委員会では、2020（令和2）年度の事業について、次の事項について報告を受け、評価について協議を行った。

その結果、すべての事項について特段の問題はなく、総合的に適正に運営されていることとして評価いたします。

- 評価事項
1. 運転・維持管理について
  2. 環境保全について
  3. 事業経営について
  4. 環境整備および地域貢献について

(別紙)

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会

委員等名簿

(敬称略、順不同)

	氏 名	所 属 団 体
委 員 長	押 谷 一	酪農学園大学
副 委 員 長	星 優 子	日本リサイクルネットワーク・えべつ
委 員	中 井 悦 子	江別消費者協会
委 員	吉 村 薫	八幡自治会
委 員	森 木 健 一	江別建設業協会

## I. 評価事項に対する説明の概要

### 1. 運転・維持管理について

江別市の要求水準書に定められた業務を適正に実施するための組織について2020（令和2）年4月1日現在の「江別市環境クリーンセンター運転維持管理に係る組織体制」にもとづいて説明を受けた。

それにより、楠瀬一郎代表取締役以下、廃棄物処理施設の運転に関わる技術管理者、ボイラータービン主任技術者、防火管理者など法令で定められ運転維持管理のために必要とされる有資格者が適正に配置されていること、職制によって勤務時間帯は異なるが、適正な運転管理を行うための運営体制となっていることなどを確認した。

#### （1）ごみ搬入量

2020年度は、昨年度に比べ、ごみ搬入量について可燃ごみが0.4%増、不燃・粗大ごみが1.1%減となり、直接埋め立てごみ量は18.7%の減となっている。埋め立てごみの減少は、災害ごみの受け入れが少なかったためであること、ごみの総量としては0.2%の微増であったとの説明を受けた。

なお、直接ごみの搬入については、平成19年度に比べ6倍に増加しているとのことであった。

#### （2）焼却施設の運転状況

##### ① ピット受入量

前年比で可燃ごみは0.4%増、排水処理に伴って発生する脱水ケーキは18.6%増、破碎施設からの選別可燃物が0.3%減となり、ピット受入総量は0.4%の微増であるとの説明を受けた。脱水ケーキが増加しているのは、最終処分場浸出水のCa（カルシウム）濃度の上昇に伴って増加しているとの報告を受けた。

##### ② 可燃ごみ処理

可燃ごみの処理量については、前年比で2.9%減となっているとの説明を受けた。

##### ③ 資源化物量、最終処分量

資源化物総量については、前年比で1.0%減、最終処分量（脱塩残渣固化物）は2.6%減となっているとの説明を受けた。

#### （3）破碎施設の運転状況

##### ① 不燃・粗大ごみ処理

処理量は、前年比で1.0%の減となったとの説明を受けた。1日当たりの処理量は昨年度に比べて大きな変化はなく14.6トン/日とのことであった。

##### ② 資源化物量、焼却・埋立量

資源化物量は、前年比で0.5%減となっていること、不燃「もやせないごみ」・粗大ごみとして搬入されたごみは破碎処理後、およそ74%が可燃ごみピットに送られ焼却処理しているとの説明を受けた。

#### （4）新最終処分場（現在、運用中の処分場）

##### ① 埋立処分量

前年度に比べて容積ベースで179%増となっている。これは概ね3年毎に実施している覆土を



実施したためであり、直接一般廃棄物については、12.9%減となっているが、既に述べたように災害ごみの受け入れが減少したことによるとの説明があった。

## ② 浸出水原水、放流水の水質

要求水準書にもとづいて水質測定を実施しているとの説明があった。浸出水は処理施設で環境基準を達成するように処理された後、放流されている。汚染度を示す BOD（生物化学的酸素要求量）、SS（浮遊物質量）、Ca<sup>++</sup>（カルシウム）などの、処理後の放流水の水質については、すべて基準値内であることの説明を受けた。

## （5）旧最終処分場

浸出水は、適正に処理され、放流水の水質は、すべて基準値内であることの説明があった。

以上のとおり、搬入される可燃ごみ、不燃・粗大ごみの搬入、焼却処理、資源化物の回収状況、最終処分（埋立）量、ならびに浸出水の処理について、データに基づいて説明を受け、特段の問題がないことを確認した。

なお、運転日報、データなどについては、適正に記入され、保管されていることを原本によって確認した。

## 2. 不具合の発生

2020 年度においては、運転の全面停止に至るような重大な事故、不具合は発生していないとのことであったが、「1 系燃焼溶融炉スラグの流れ悪化による立下げ」事案が発生したとのことである。この事案は、溶融炉下部の溶融スラグ排出口においてスラグが固着したため、閉塞状況となったことによるものである。定期点検時に担当者が排出口の固着については確認していたが、斫る（除去する）緊急性はないと判断していた。テレビカメラによる遠隔で確認中、運転の異常を発見し、速やかに停止し、スラグを取り除いたために運転に支障はなかったとのことであるが、今後、排出口周辺の斫り作業の回数を増加する対策を講じたとのことであった。この事案の発生時、もう一方の 2 系は、整備業務のため運転を停止していたが、廃棄物受け入れピットの貯留量を少ない状況にしてあったために、受け入れ停止とはならなかったが、運転停止が長期に亘った場合には、市内から収集された廃棄物の受け入れが制限される事態も想定されるため今後の点検のあり方を慎重に検討すべきである。

## 3. 環境保全について

環境保全業務については、測定、分析すべき項目、頻度などは要求水準書に記載されている要件について、定期分析計画、分析結果を示しながらすべて問題なく事業を実施していることの説明があった。

本施設においては、国の基準を遵守することはもとより、それより厳しい基準値を定めた江別市（役所）が独自に環境基準値を設定しているものもあるが、すべての項目において基準値をクリアしていることの説明があった。

作業環境測定において、一時、分別設備室のダイオキシン濃度が第 2 管理区域（作業環境の改善の余地がある）との測定値となったが、原因は振動機器を繋ぐゴム製の機器のジョイント部より若干の粉塵が漏れたことによるもので、直ぐに補修処置を実施したとのことである。その後、現場巡回頻度を高めて状況を確認することとし、自主測定を行った結果、その後問題ないことを確認したとのことであった。

破砕施設の騒音対策については前年度の委員会でも指摘されていたが、その後も第 3 管理区分（作業環

境の管理状況が適切でない)とされる箇所もある。これに対して、作業員が立ち止まって作業する場所ではないので作業員が被害を受けることはないこと、ウレタンフォームタイプの耳栓着用などを徹底していること、点検時などには、確実に機器を停止してから立ち入ることなどの対策を厳守しているとの説明があった。なお、この場所を通行する作業員は、年2回の検診を受けており、健康に異常は発生していないとのことである。

#### 4. 事業経営について

収支決算など経営にかかわることについては、取締役会、株主総会が責任をもつべきことであり本委員会では、江別市との契約を交わすことのできる事業主体として適当であるかという視点から評価を行うこととした。

2021年4月1日付で、三井E&Sホールディングス株式会社(MES-H)が株式会社エコクリーン江別(ECE)の80%の株を有する三井E&S環境エンジニアリング株式会社(MKE)の“持ち株”すべてを、JFEホールディングス株式会社(JFE)に売却したことから、MKEはJFEグループ傘下となり社名をJFE環境テクノロジー株式会社(JET)に変更した旨の説明があった。ECEの事業運営については何らの支障がないとのことであった。

本年6月4日に定時株主総会が行われ、事業報告ならびに第14期決算を報告し、承認されている旨の説明があった。それによれば、灯油単価や高圧電気従量料金単価の下落によって前年度の利益と比較して14,371千円増加し、当期の純利益は、20,064千円であった。繰越利益剰余金は167,149千円となっていることの説明を受けた。株主への配当等は、江別市との包括協定が満了した時点まで行われたいとの説明があった。

さらに貸借対照表による資産などの説明、支出状況ならびに各種保険の加入状況などについて説明を受けたが、特段の問題はみられない。

なお、費用のうち工事請負費等を江別市内の業者に支払われた分(市内調達率)は、全体で23.8%となっている旨の説明があった。

#### 5. 環境整備および地域貢献について

地域との連携を強化するとともに、地域貢献のための事業についても積極的に取り組んでいる旨の説明を受けた。子育て支援事業への協賛支援として子育て世帯に指定ごみ袋の提供を行うとともに、周辺環境の整備のために、周辺の清掃活動に積極的に参加したほか、緑化のため植樹した施設周辺樹木の維持管理に努めている旨の説明を受けた。しかしながら例年、市内在住の親子を対象にした「環境フェア★イン八幡」の開催は、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止し、その代替として江別市に対して小学校教育の推進のために25万円を寄付した旨の説明があった。

また、社員による施設周辺の環境美化ウォーク(ごみ拾い)などの活動も報告された。2020年度の環境クリーンセンターの視察・見学は、すべて中止したとの説明があった。

なお、今年度も新型コロナウイルスの感染拡大のおそれがあるため、「環境フェア★イン八幡」は開催しないとのことであった。

例年、関係企業より技術者が評価委員会にオブザーバーとして陪席いただいていたが、新型コロナウイルスのことから昨年度に引き続いて今回も陪席していなかった。貴社との技術的なことについての質疑応答で不足があれば、後日、書面で回答いただくことを委員に説明があったが、特段の補足は不要とし

た。

以上、一連の説明の後、楠瀬代表取締役以下の会社関係者の退席をもとめ、委員会メンバーのみで、評価について意見交換を行い、次のような総括に至った。



## II. 総括

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会は、株式会社エコクリーン江別の2020（令和2）年度事業を評価するため、2021（令和3）年7月26日に評価委員会を開催した。

委員に対しては、事前に測定データなどを記した関係資料が送付され、委員会の席においては、楠瀬一郎代表取締役ならびに担当社員より事業内容について詳細な説明があった。

本施設は、稼動開始後18年を経過していることから経年劣化なども想定されるが、楠瀬一郎代表取締役などより運転状況について説明を受けたが、重大な事故などは発生することなく安定した運転がされたとのことであった。しかし、一時、溶融炉の停止事案が発生している。市内の廃棄物の受け入れ停止をはじめ、周辺環境への影響などは発生していないが、点検のあり方などの改善が必要であると認められることを指摘しておきたい。

また、江別市の人口の推移、灯油・電力などの価格変動による影響をはじめ、新型コロナウイルス感染拡大、温暖化による自然災害など貴社をとりまく社会環境は、一段と厳しさを増していることをはじめ今年4月より貴社親会社の株主の変更もあったが、貴社ならびに関連会社のみなさまの不断のご尽力により、経営面、技術面で特段の支障がなく、運営されていることを十分に確認することができた。

評価委員会では、評価事項すべての説明および質疑応答を終えた後、関係者の退席を求め、委員全員による評価を行った。その結果、委員全員一致により貴社の環境クリーンセンター等の2020年度の運営事業については、特段の問題はないと評価する旨の結論に至ったのでここに報告する。

本委員会で示された運転状況、環境測定結果などのデータなどについてはホームページ上では公開していないが本社及び事業所を来訪し、閲覧を希望する者には閲覧を許可しているとのことである。

本委員会より提出するこの「評価報告書」は例年のようにホームページで公表するなど、情報公開に努めていただきたい。

なお、貴社の江別市からの委託事業は、2021年度末をもって満了となる。江別市では、環境クリーンセンター等については、耐用年数を超えても延命化し、操業を継続するとのことである。来年度以降、貴社が事業を委託されるかどうかは不明であるが、委託期間満了後も見据えて、2021年度においても一層の安定した業務を果たしていただきたい。

以上